

大納言入道武者小路大納言已下數輩同道了、十五日依召參內於室町殿二間有遺教經、亂已前也、依亂中興爲御聽聞主上出御之故被召云々元長同祇候、十八年二月十二日參詣遣教經中御門絕、又再興中、爲御聽聞主上出御之故被召云々元長同祇候、十八年二月十二日參詣遣教經中御門

中納言日野中納言等同道有樂八、樂林軒有幡新中納言季經慶秋景兼景益等也、

〔言繼卿記〕天文十四年二月九日壬寅一四辻薄等令同道千本維教經ニ參詣先出立に廣橋にて一盞有之舍利講式第一段中程也雙調胡飲酒破酒胡子武德樂等有之、

常樂會

〔圖會〕年中行事大成二月十五日南都興福寺常樂會東金堂に閻浮檀金の釋迦佛の像あり厨子に安す其扉に涅槃像を畫く相傳ふ巨勢金岡が筆なりと云今日其扉を開く〔涅槃は梵語なりば常樂會淨を涅槃といふ是は即涅槃會ならん歟、

〔華實年浪草〕二月常樂會拾芥抄曰二月十五日南都興福寺常樂會云々、紀事曰今日開其扉東金堂有閻浮檀金釋迦像其扉面有涅槃像相傳金岡之所畫也、今日開其扉常樂會云々、隋書經籍志曰涅槃譯言滅度亦言常樂我淨四德波羅蜜云々、弘傳序云早淨六根速成四德四德謂涅槃具常不遷樂我淨之四德也云々常樂會モ涅槃會ニ同シ〔中略〕諸宗毎寺院修涅槃之法會攝州四天王寺ニ於テモ常樂會ト云、

〔百練抄〕四條仁治二年二月十五日癸酉南都常樂會入道相國被參被進會料米百石云々、

〔野山名靈集〕常樂會每年二月朔日より同十日まで大樂院に於て涅槃經の講筵をひらき、一日には遺教經を講じ十五日には涅槃會を修す其儀頗嚴重なり中頃龜山院此會の殊勝なる事を聞召て宸筆を以涅槃會の式文を寫させ給ひ其外羅漢遺跡舍利の式をば當時能書の公卿に仰て寫さしめ給ひ又大師御作の舍利塔并に數軀の尊像共に大師より嵯峨天皇に奉り給ひ御代々御相傳ありけるを今般院主信日阿遮梨御歸依によりてことごとく寄附し玉ひ剩備後國太田の庄等を以涅槃會の料としてこれを宛行はる夫より已來勅願の涅槃會と號するものなり、